

## 【複式指導実践講座 NO,2 ~「直接指導」と「間接指導」そして「ずらし」と「わたり」~】

複式指導実践講座の2回目です。さて、少人数である域内にあって、自分の授業を振り返ってみてください。



A子は〇〇が苦手だから、習熟の時は丁寧にみるぞ。

机間指導を丁寧に、つまずきをしっかり見とっていきましょう。



少ない人数なので丁寧に指導をするという意識があつてとてもいいと思います。「個別最適化」の実践ですね。

しかし、手をかけすぎてしまっていることはありませんか？

手をかけすぎて、児童生徒のじっくり考える時間を奪ってしまっていることはありませんか？

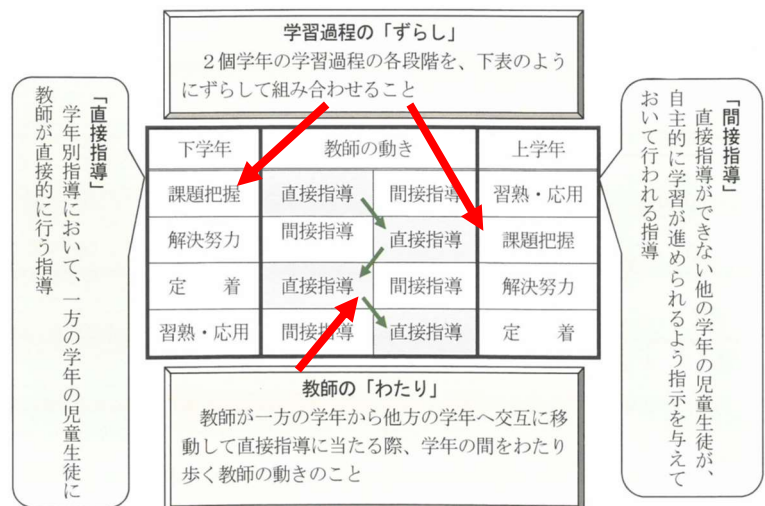
子供たちに自分の考えをしっかりと持たせるためには、一人でじっくり考える時間を確保することが大切です。複式指導では、その時間をしっかりとることができます。複式での指導では、「一方の学年の子供を指導する」→「直接指導」と「子供たちが自主的に取り組む」→「間接指導」で学習過程を設定します。この間接指導の時間の充実を図ることで「一人一人にじっくり考えさせる時間、解決に取り組む時間」を確保することができます。

そして、効果的な学習過程を組むためには「ずらし」と教師の「わたり」を行います（下記図参照）。「ずらし」と「わたり」の詳細は別に説明します。

直接指導の充実を図るためには、指導内容を精選し、計画した時間内で指導を終了することが大切です。また、間接指導では、学習活動をはっきりさせ、明確に伝えること（発問の吟味）が重要になります。そして、学習内容によっては、意図的に直接指導と間接指導の時間配分を考えることが、この時間の充実の上で大切です。

複式指導の利点を生かし、自主的に子供がじっくりと考える時間を確保し、一人一人の学力向上につながるよう授業を組み立てていきましょう。

発問の吟味や指導内容の精選は単式学級でも常に意識したいですね。



北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター「へき地・複式学級における学習指導の手引き」（平成31年3月）P20より

※ 説明のための矢印は、事務所にて記入

福島県教育庁南会津教育事務所  
学校教育課

TEL 0241 - 62 - 5255

HP <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70510a/>

